

令和2年度

名古屋城天守閣の整備

名古屋おもてなし武将隊 徳川家康です。

これから、名古屋市からの説明として、名古屋城天守閣の整備について、ご説明いたします。

なお、より詳しい資料として、別で資料編をご用意しています。参考にご覧いただければと思います。

なぜ、名古屋城天守閣を木造復元するのか

○ 天守閣の老朽化

1959（昭和34）年の再建から60年以上が経過し、**耐震性能の確保が課題**に

→現行の耐震基準を下回るため、平成30年5月から入場禁止

○ 史実に忠実な木造復元

豊富な史資料が現存

→外観、内部構造に至るまで
史実に忠実な復元が可能



昭和実測図



金城温古録

名古屋城天守閣の木造復元事業についてご説明します。

現在の天守閣は、戦災による木造天守焼失後、1959年に建てられたものですが、再建から60年以上が経過し、耐震性能の確保が課題となっています。

名古屋城には、先人の方々の苦勞と努力により豊富な史資料が現存しており、名古屋城は、唯一、史実に忠実な復元が可能と言われています。

名古屋城は近世城郭の最高峰

- 名古屋城は日本一の城郭
 - ・ **天守**は、現存最大の姫路城天守の2倍を軽く超える**巨大さ**
 - ・ **本丸御殿**は、二条城二の丸御殿と双璧をなす**近世城郭御殿の最高峰**
 - ・ 現存する**石垣**の量は**大阪城、江戸城に次ぐ規模**
 - ・ **二之丸庭園**は、現存する城内庭園としては**最大**

名古屋城は、天守の巨大さはもちろん、本丸御殿の規模、石垣の量、二之丸庭園の規模を見ても、日本一の城郭といえます。

名古屋城は近世城郭の最高峰

近世期の名古屋城本丸を実感できる
歴史的、文化的空間を再現



- 特別史跡名古屋城跡の
本質的価値の理解の促進
- 文化面及び観光面における魅力の向上

近世城郭の最高峰である名古屋城全体を整備していくことで、
近世期の名古屋城本丸を実感できる歴史的、文化的空間を再現し、

- ・特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解の促進
- ・文化面及び観光面における魅力の向上

につなげていきたいと考えています。

特別史跡名古屋城跡の本質的価値

- 尾張徳川家の居城であった
- 現存する遺構や、豊富で詳細な史資料により、築城期から近世までの改修・改変の変遷をたどることができる
- 築城当時の都市計画が、現在の名古屋の都市形成のきっかけとなっている

特別史跡名古屋城跡の本質的価値とは、

- ・徳川家康の命により築城された、尾張徳川家の居城であった城跡 であり、
- ・現存する遺構や、詳細な史資料により、築城期からの変遷をたどることができる城跡 であり、
- ・現在の名古屋へと続く都市形成のきっかけとなった城跡 であることです。

このような本質的価値の理解の促進のためにも、天守閣の木造復元事業を進めてまいります。

現天守閣の位置づけ

○ 意義・役割

- ・戦後復興の象徴
- ・展示収蔵機能を備えた博物館としての役割 など

○ 記録の保存と記憶の継承

- ・図面、写真、解体する部材の一部を保存
- ・資料等のデジタル化・公表
- ・部材の展示、グッズ化 など

現天守閣は、戦後復興の象徴であり、博物館としての役割を果たすなど、名古屋の誇りとして、今もありつづけています。

木造復元事業を進めるにあたっては、現在の天守閣の記録・記憶を後世に伝えていくことも重要と考えています。

復元事業の進捗状況

1. き損事故への対応

2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ
3. 木材の調達及び保管状況
4. バリアフリーの検討
5. 機運醸成

さて、ここからは、復元事業の進捗状況についてご説明します。

まずは、き損事故への対応です。

1. き損事故への対応

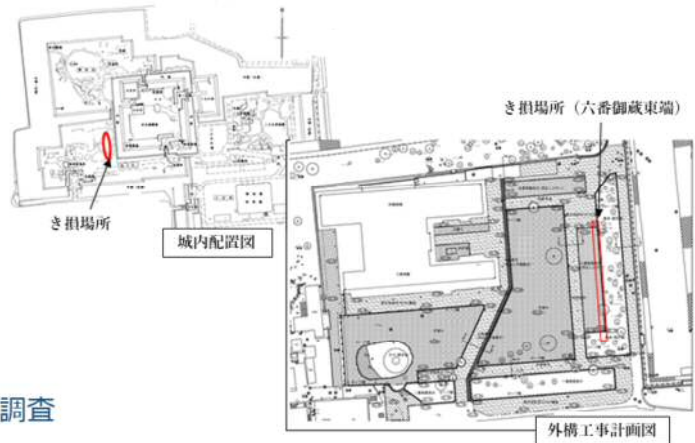
○き損事故の概要

令和2年3月2日
展示収蔵施設の外構工事において
地中にあった石列をき損

▼
事故後は直ちに工事を中断し
き損した遺構を保全

▼
事故調査委員会を設置し
事故時の状況や事故原因を詳細に調査

▼
有識者及び文化庁の指導・助言を得ながら、再発防止対策を策定



き損事故とは、令和2年3月2日、重要文化財日本丸御殿障壁画等を展示収蔵するための施設のオープンにむけて、外構工事を行っていたところ、地中に埋まっていた江戸時代の蔵跡と推定される石列をき損してしまったものです。

天守閣木造復元を含めた名古屋城の全体整備を進めていく中でこの事故が起こり、二度とこのようなことがおきないように、真摯に反省し、組織を挙げて再発防止に全力で取り組む必要がありました。

1. き損事故への対応

○き損箇所の修復

再発防止対策

- 史跡の保存のための基本的な考え方を徹底
- 組織間の意思疎通と役割分担を明確化
- 各段階におけるチェック機能を強化
- 監督・立会いを適切に行うための統一的手順を明確化

6/26
文化庁へ
届出

調査

- 石材の痕跡等を詳細に調査
- すべて石材について本来の位置を特定又は推定

10/22
有識者会議へ
報告

修復

- 石材を本来の位置に戻し、き損事故前の状態に復旧

工事再開

修復後、展示収蔵施設のオープンにむけた
工事再開

このことから、有識者や文化庁の指導、助言をいただきながら、再発防止対策をとりまとめ、令和2年6月26日に文化庁へ提出いたしました。

その後、き損した部分の詳細な調査を経て、現在は修復作業を行っているところです。

今後は、再発防止対策を徹底し、展示収蔵施設のオープンにむけた外構工事を、再開する予定です。

復元事業の進捗状況

1. き損事故への対応
2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ
3. 木材の調達及び保管状況
4. バリアフリーの検討
5. 機運醸成

次に、文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れです。

2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ

○現天守閣解体の現状変更許可申請に対する指摘事項への対応

現天守閣解体の現状変更許可申請

文化庁から申請に対する指摘事項

指摘事項への回答に必要な調査等の実施調査

- ・内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の現況及び安定性を確認するための追加発掘調査
- ・御深井丸の地下遺構把握のための発掘調査
- ・大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討
- ・天守台石垣背面等の空隙についての調査

検討・整理

- ・現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかの検討、整理
- ・木造天守復元に係る計画の具体的内容の追加提出

文化庁へ指摘事項への回答を提出

次のステップに進む環境へ

平成31年4月19日に「現天守閣解体の現状変更許可申請書」を文化庁に提出し、それに対し、令和元年9月24日に文化庁から指摘事項が示されました。その指摘事項において、文化庁から工学的視点に加え、考古学的視点からの調査・検討を求められています。

不足している考古学的な調査として、具体的に、次の4つが示されています。

- ・内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の現況及び安定性を確認するための追加発掘調査
- ・御深井丸の地下遺構把握のための発掘調査
- ・大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討
- ・天守台石垣背面等の空隙についての調査

また、このほかに、現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためか、の検討・整理、及び、木造天守復元に係る計画の具体的内容の追加提出も求められています。

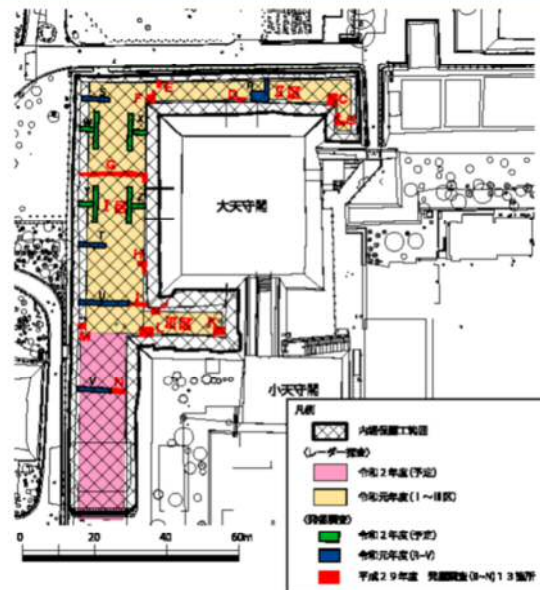
現在、この調査や検討・整理を進めているところで、令和3年4月にその結果を取りまとめたものを文化庁に提出していく予定であります。

この回答を行なうことで、文化庁での議論を進めていただくなどの、次のステップへ進む一定の環境が整うと考えております。

2. 文化庁からの指摘事項への対応

○本丸内堀の発掘調査

- 内堀堀底の堆積状況を確認するための調査
- 戦後の攪乱の状況、遺構の残存状況を確認
- 石垣面については、三次元レーザー測量を実施
- 令和2年11月から調査を開始



文化庁からの指摘事項への対応として、令和2年度に実施している調査を紹介します。

1つ目に、本丸内堀の発掘調査についてです。

令和元年度に黄色の範囲で実施した地中レーダー探査で、地中に何かが埋まっている、あるいは空洞になっている可能性がある範囲がわかりました。この範囲において、図の緑色で示したT字の形状で発掘調査を行います。

本丸内堀の発掘調査は、令和2年11月から開始しています。

2. 文化庁からの指摘事項への対応

○御深井丸等地下遺構の発掘調査

- 現天守閣解体工事に際し、仮設構台が設置される範囲について、地下遺構の状況を把握するための調査
- 計26か所でトレンチ調査を実施
- 小天守西側においては、地下遺構面の深さを把握するため、ボーリング調査を1か所実施
- 令和2年12月から調査を開始



2つ目に、御深井丸等地下遺構の発掘調査についてです。

「仮設構台・栈橋を設置することとされている御深井丸については、地下遺構の状況を把握し、遺構が集中している箇所には構台等を設置しない等の検討が必要である」という文化庁からの指摘事項に対応するための調査です。

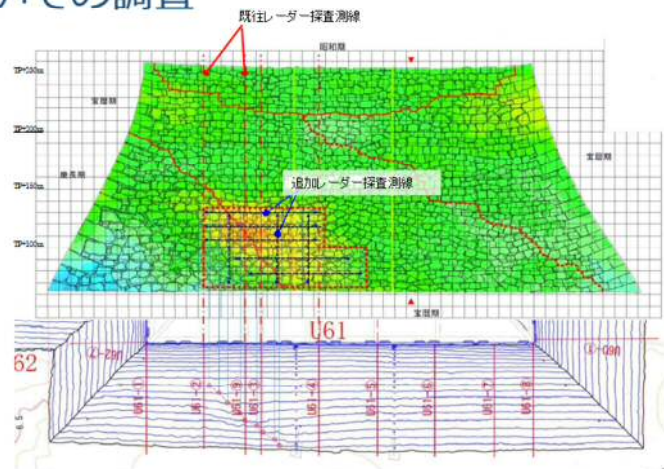
現天守閣解体工事に伴う仮設構台設置範囲の地下遺構の状況を確認するため、図で赤色の四角で表示された26か所の位置において、トレンチ調査を行います。また、小天守西側の黄緑色の○印の位置において、地下遺構の深さを把握するため、ボーリング調査を行います。

この調査は、令和2年12月から調査を開始しています。

2. 文化庁からの指摘事項への対応

○天守台石垣背面空隙についての調査

- 大天守台北面石垣に対し、追加のレーダー探査を実施
- 令和2年9月から調査を開始
- 現在、調査結果を取りまとめ中



大天守北面の追加レーダー探査位置

3つ目に、天守台石垣の背面における空隙についての調査です。

これまで行ったレーダー探査では、栗石層に締固め密度が低いと考えられる強い反応が点在していましたが、特に孕み出し部にのみ強い反応が認められる状況ではありませんでした。

調査箇所は、既往レーダー探査測線として、赤色の縦方向の実線で示しております。

しかしながら、文化庁からの指摘事項に従い、より精度の高い情報を得るため、今回、大天守台北面の孕み出し部分を中心に、図の黒色の破線において、横方向5本・縦方向3本の追加レーダー探査を行いました。

この調査は、令和2年9月に開始しました。現在、調査結果を取りまとめ中です。

2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ

○現天守閣の解体理由と木造天守復元に係る計画の検討、整理

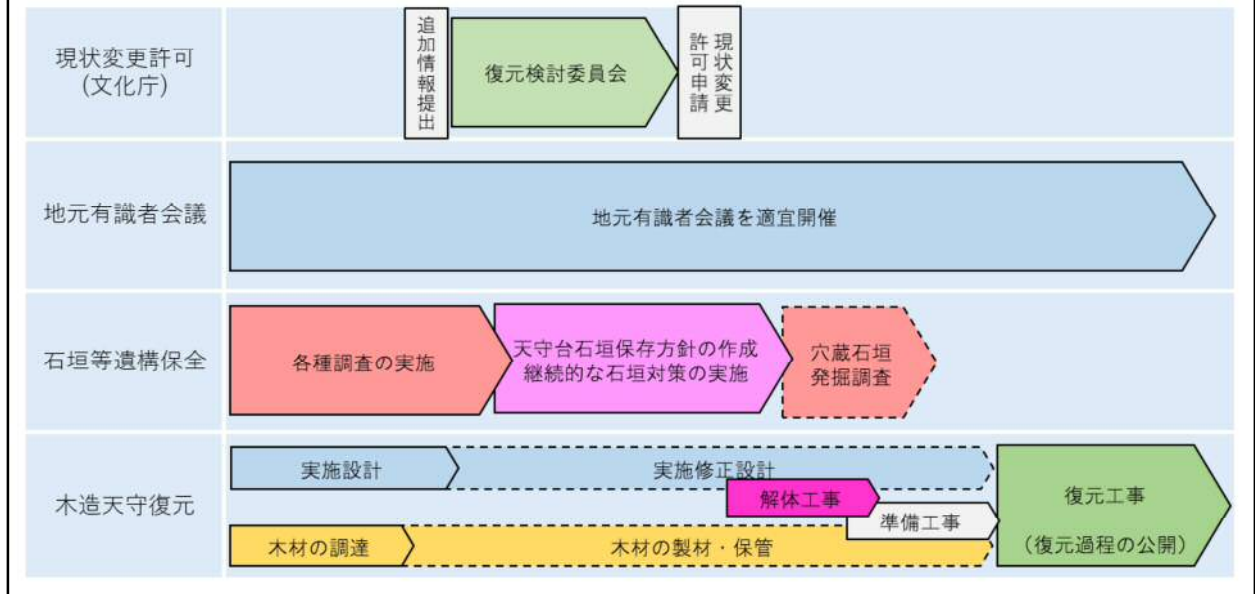
- 木造天守復元の具体的計画を本丸の基本構想の中で整理中



つづいて、現天守閣の解体理由と木造天守復元に係る計画の検討、整理です。

現在、木造天守復元の具体的計画を本丸の基本構想の中で整理をしており、これについても、取りまとめたうえで文化庁へ追加情報として提出をしていく予定で進めております。

2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ



以上の調査、検討、整理を行い、指摘事項に対する追加情報の提出を文化庁に行い、復元検討委員会でご審議いただき、最終的に「解体」と「復元」を一体化した現状変更許可を得た上で、現天守閣の解体及び木造天守の復元工事に入っていくことになります。

復元過程は、公開を予定しています。

復元事業の進捗状況

1. き損事故への対応
2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ
- 3. 木材の調達及び保管状況**
4. バリアフリーの検討
5. 機運醸成

次に、木材の調達及び保管状況です。

3. 木材の調達及び保管状況

○木材の調達

- ・江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曽地域（中津川）から大量の木材を調達した記録が残っている。
- ・木造天守復元に使用する木材は、裏木曽地域をはじめとした木材関係者のご協力をいただき、全国各地から調達している。

○木材の保管状況（令和2年度末見込み）



			内訳
保管場所	樹種	使用箇所	本数（本）
岩手	松	梁	466
岐阜	桧・松	柱・梁	772
愛知	桧・樺	柱・梁	96
奈良	桧	柱	335
高知	桧	柱・梁	402
計	—	—	2,071

江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曽地域から、大量の木材を調達したという記録が残されております。

木造天守復元に使用する木材は、裏木曽地域をはじめとした木材関係者のご協力をいただき、全国各地から調達しております。

平成30年7月の契約締結以降、木材を2,071本調達しました。

また、木材は、岩手県、岐阜県、愛知県、奈良県、高知県内のそれぞれ倉庫に保管されております。

調達した木材は、直射日光を防ぎ、風通しがよい適切な環境で保管することにより、木材の品質を安全に保つことができます。

木材の表面が変色することがありますが、使用前に修正製材を行うため、問題とはならないことを、複数の宮大工の方から伺っております。

復元事業の進捗状況

1. き損事故への対応
2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ
3. 木材の調達及び保管状況
- 4. バリアフリーの検討**
5. 機運醸成

次に、バリアフリーの検討です。

4. バリアフリーの検討



○検討状況

障害者団体の皆様と、名古屋市障害者団体連絡会の場や、ワークショップ、個別の話し合い等の場を通して、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立について説明をするとともに、新技術の公募についてもご意見をいただきながら、バリアフリーの実現に向けて検討を進めている。

名古屋市は、木造天守の史実に忠実な復元と誰でも昇れるためのバリアフリーを両立することを目指しています。

史実に忠実に復元をしようとした場合、通常のエレベーターが設置できないため、史実に忠実な復元とバリアフリーを両立するための有用な技術を世界中から募り実用化することとしました。

検討状況といたしましては、障害者団体の皆様には、丁寧に説明をするとともに、新技術の公募についてのご意見をいただきながら、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立の実現に向けて検討する対話を進めて来ています。

復元事業の進捗状況

1. き損事故への対応
2. 文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れ
3. 木材の調達及び保管状況
4. バリアフリーの検討
- 5. 機運醸成**

次に、機運醸成です。

5. 機運醸成

○機運醸成イベント

木造復元事業の機運を高めるため、イベントを行っています。

VR映像で木造天守の内部を体験



木造復元天守の模型（100分の1）を体験



木造復元事業の機運を高めるため、イベントを行っています。

VR映像で木造天守の内部の体験や、木造復元天守の模型を体験するイベントを、商業施設で行いました。

5. 機運醸成

○寄附募集

いただいたご寄附は、木造復元事業に活用させていただいています。

イベント・城内での寄附募集



金シャチパートナー制度

木造復元事業をご支援
いただけるパートナーを
募集しています。

- ・ 売上げの一部の寄附
- ・ 物品支援
(企業等による製品の提供)
など

また、イベントブースや城内などのご寄附や、金シャチパートナーからのご寄附・ご支援もいただいています。

いただいたご寄附は、木造復元事業に活用させていただいております。

復元事業の推進

○事業推進の取り組み

- ・文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき適切に対応する
- ・史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、石垣をはじめとした遺構等に影響を及ぼすことのないよう、慎重に整備を進める
- ・市民の皆さまの木造復元事業への理解が深まるよう機運の醸成に努める

さて、最後になりますが、復元事業の推進の取り組みとして、今後も、

- ・文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき適切に対応し、
- ・史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、遺構等に影響を及ぼすことのないよう、慎重に整備を進めるとともに、
- ・市民の皆さまの木造復元事業への理解が深まるよう機運の醸成に努めてまいります。



ご清聴ありがとうございました。

以上で、名古屋市からの説明を終了いたします。

名古屋城天守閣木造復元事業について、少しでもみなさまの理解を深めていただく機会とすることができていたら幸いです。

ご清聴ありがとうございました。